

【現状】

- ・ 毎年80名程度の外国籍の児童生徒が在籍している。
- ・ 多国籍化している。
- ・ 日本の学校で就学することへの期待感が高い。
- ・ 日本語指導を必要とする児童生徒の各言語に対応した外国人児童生徒等教育相談員の確保が難しい。

【課題】

- ・ 様々な母語に対応する必要がある。
- ・ 来日直後の初期指導を受ける機会が十分ではない。
- ・ 日本語指導の在り方について、指導方法や内容等、各校の実践を共有することが十分にはできていない。

成果指標

日本語能力測定方法等を活用した児童の日本語能力の実態把握
(実態把握に基づく支援達成率80%)

「特別の教育課程」「個別の指導計画」による個別の指導目標達成
(達成率80%以上)

教員・保護者アンケート等による評価や相談員派遣・連絡協議会の開催等により指導体制・指導方法について共通理解の促進
(肯定的評価80%以上)

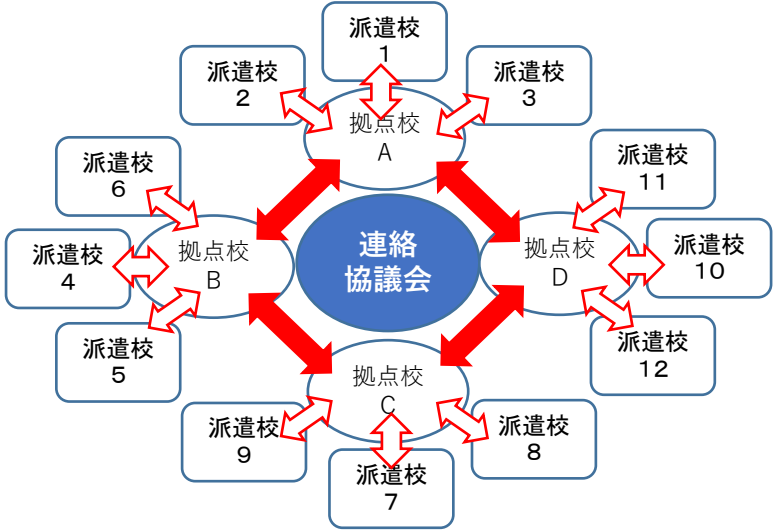
拠点校の設置と教育委員会における拠点的功能、関係機関との連携を通じ、来日直後の初期指導から学校生活における学習支援、生活支援、進路相談などの体制を整備する

【実施事業の概要】

- ・ 教育委員会に拠点的功能（本事業のコーディネート）を整備
- ・ 連絡協議会の開催等による指導内容や方法についての共有
- ・ 「特別の教育課程」と「個別の指導計画」による指導
- ・ 外国人児童生徒等教育相談員の派遣
- ・ 関係機関との連携による支援
- ・ 外国人児童生徒等教育相談員を派遣した学校（拠点校）における成果と課題の総括と共有

- 外国人児童生徒等教育相談員の派遣／自動翻訳機の貸出
 - ・ 学校教育推進課
- 初期指導支援
 - ・ 総合教育支援センター
 - ・ 民間団体との連携
- 相談員等の紹介
 - ・ 福島県国際交流協会
 - ・ 郡山市国際交流協会等との連携
- 事業のコーディネートや「個別の指導計画」作成のための助言
 - ・ 学校教育推進課

支援連携



※拠点校は、派遣校や新たに編入学等がある学校と実践を共有する。